

# 週 報

1992年10月4日 聖霊降臨節第18主日

世界聖餐日・世界宣教の日

巻 13 27号

1992年度教会主題

「復活の主を見る」

聖句 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」語り合った。

ルカによる福音書 24章31節～32節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 交わりを深めつつ、教会の新しい方向を求める。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323、045-833-6616

振替 横浜 9-13994

牧師 秋 吉 隆 雄

至聖所に大祭司が年に一度入り、人間の罪を贖う儀式を行っていた。イエスが十字架で息を引き取る時、この「垂れ幕が裂けた」という。これは、明らかに垂れ幕が不要になり、神と人間を隔てるものがなくなったことを象徴している。神は隠れた至聖所におられるのではなく、イエスの十字架にその現臨を示された。ヘブライ書は記している。「兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。……心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか」。神との間を隔ていた罪を洗い流し、清い者として神と直接交わることを可能にしてください。ルカは、この罪の赦し、神との和解の出来事を「垂れ幕が裂けた」と記し、イエスの十字架の意味を告げている。教会はこの十字架信仰に立ってきた。

## —牧師室より—

イエスの十字架について三回にわたり説教した。ルカは、イエスが十字架で息を引き取ろうとする時「神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた」と記している。「されこうべ」と言われた刑場とエルサレム神殿の間には相当の距離がある。なぜ、イエスの十字架と神殿の垂れ幕が関係したのか。ここに、イエスの十字架の意味が告知されている。神と人間の関係は言葉によっては説明できない。象徴、あるいは神学的主張によって伝達するしかない。

神殿の垂れ幕は至聖所（せいせい）と言われた神の現臨する所と人間世界を隔てるものだった。至聖所には掟ての箱があり、その中にモーセの十戒の石版とマンナの入れた金の壺とアロンの杖があり、その上に贖いの座があった。この